

平成 26 年度 板橋区障がい者虐待の受付状況・虐待認定事案

1 受付場所別の内訳

※ () は、総件数から同一障がい者に係る通報等の重複分を除いた実件数

受付場所	H26 年度件数	H25 年度件数
虐待防止センター	14 (14)	18 (12)
福祉事務所 (3ヶ所)	4 (4)	3 (3)
健康福祉センター (5ヶ所)	2 (2)	1 (0)
障がい者福祉課	5 (5)	3 (2)
予防対策課	0 (0)	0 (0)
合計	25 (25)	25 (17)

2 相談・通報・届出者の内訳

相談・通報・届出者	H26 年度人数	H25 年度人数
障がい者本人	8	9
家族・親族	2	0
近隣住民・知人	0	4
福祉サービス関係者	8	5
医療関係者	3	1
行政・教育機関	2	2
その他・不明	2	4
合計	25	25

3 被虐待者の障がい別内訳 ※重複障がいは、それぞれに計上

障がい	身体		知的		精神		不明	
	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25
人数	2	7	11	6	10	7	4	2

4 虐待者の内訳

虐待者	H26 年度		H25 年度	
	総件数 (実件数)	虐待認定 件数	総件数 (実件数)	虐待認定 件数
養護者	13 (13)	2	17 (11)	2
障がい者福祉 施設従事者等	9 (9)	4	4 (3)	1
使用者	1 (1)	0	1 (1)	0
その他	2 (2)	0	3 (2)	0
合計	25 (25)	6	25 (17)	3

5 虐待の事実が認められた事案

NO	受付場所	相談・通報 届出者	虐待者	主な虐待内容 (手帳・障害支援区分・年齢・性別)	状況・対応等
1	虐待防止センター	福祉サービス関係者（当該施設管理者）	障がい者福祉施設従事者等	食欲がないと言いながら食事をしていたので、食事を取り上げた。 (愛の手3度・区分5・60代・女)	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれも同一職員によるもの。 ・職員は、現施設で4年の経験だが、福祉の専門資格はなし。良かれと思いやったものもある。日常の勤務が忙しかったり、周りの職員は勤務年数が少ない人ばかりで、聞きにくい。
2	虐待防止センター	福祉サービス関係者（当該施設管理者）	障がい者福祉施設従事者等	しっかりと意思確認をしないで、障がい者の小遣いで毛染め液を買い、障がい者の毛を染めた。 (愛の手2度・区分4・40代・女)	<ul style="list-style-type: none"> ・職員に対し疑問に思ったことは、勝手に判断しない。他の職員の支援の様子を確認して学ぶなど指導。
3	虐待防止センター	福祉サービス関係者（当該施設管理者）	障がい者福祉施設従事者等	しっかりと意思確認をしないで、勝手に利用者のズボンを借りた。 (愛の手2度・区分6・40代・女)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設に対し職員が「報告・連絡・相談」をしやすい体制の確立、安全対策会議や職員会議で問題意識を共有化、効果ある研修の実施、利用者の金銭管理の徹底、虐待と思われる案件の速やかな届出を指導。
4	虐待防止センター	福祉サービス関係者（当該施設管理者）	障がい者福祉施設従事者等	本人のこだわりで毎朝ルーズリーフを渡しているが、他の人の介護を優先したら本人が興奮したため、肩を叩いて落ち着かせた。 (愛の手3度・区分5・40代・女)	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉事務所担当職員による定期的な施設訪問を行い、継続的に支援内容を確認する。
5	福祉事務所	福祉サービス関係者（当該施設職員）	養護者	本人に待つように言っても、わかってもらえず騒ぐため、母が腕を噛んでしまった。 (愛の手2度・区分5・20代・男)	<ul style="list-style-type: none"> ・母の思いを聞いて受け止める。 ・レスパイトで短期入所の利用を勧奨。 ・通所施設と連携し、見守っていく。
6	障がい者福祉課	その他（通行人）	養護者	親戚の飲食店で働いている。仕事がいい加減だったり暴言や足を引っ掛ける等の行動があったときに、叩いて注意した。 (愛の手4度・区分なし・30代・男)	<ul style="list-style-type: none"> ・本人は引き続き勤務希望。 ・店主や従業員に、叩く等の行き過ぎた指導は虐待にあたる旨説明し理解を得た。